

市議会役員決定
議長は関貫久仁郎さん、副議長は井上正治さん

11月13日、市議会臨時会が開催され、議会役員が決まりました。

議長に関貫久仁郎さん、副議長に井上正治さん、議会選出の監査委員に木谷敏勝さんがそれぞれ選ばれました。

(以下、敬称略)



議長
関貫久仁郎



副議長
井上正治



監査委員
木谷敏勝

なお、各委員会の委員長、副委員長は次のとおりです。
◎は委員長、○は副委員長です。

■常任委員会

【総務委員会】

◎井垣文博 ○浅田 徹

【文教民生委員会】

◎竹中 理 ○上田倫久

【建設経済委員会】

◎西田 真 ○福田嗣久

【予算決算委員会】

◎井上正治 ○井垣文博

○竹中 理 ○西田 真

■特別委員会

【議会広報広聴特別委員会】

◎松井正志 ○青山憲司

【人口減少対策等調査特別委員会】

◎奥村忠俊 ○上田倫久

【防災対策調査特別委員会】

◎浅田 徹 ○上田伴子

■議会運営委員会

◎椿野仁司 ○伊藤 仁

市議会本会議の様子は、市ホームページで見ることができます。



事業所は変革を、女性は自分らしく働く
「女性に選ばれるまち」になるために

本市の人口減少の最大の要因は、若年層の流出です。高校を卒業し、進学等で市外に転出した者が、就職等で戻ってくる割合が低く、特に女性が戻らないことが大きな課題です。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」というような性別役割分担意識により、長らく女性がいきいきと働くこと、結婚、出産後も働き続けることを難しくしてきました。このことは豊岡でも顕著であり、女性が戻ってこない原因の一つとして上げられます。女性が戻ってくる、つまり「女性に選ばれるまち」になるためには、このような意識を変えていく必要があります。

「ワークインベーション」

推進会議」を設立

10月23日、市役所を含む16の市内事業所が「豊岡市ワークインベーション推進会議」を設立しました。女性にとつて働きがいがあり、働きやすい仕事・職場環境を整えることを民間主導で検討します。

子育て中の女性就労促進

10月22日、豊岡市民プラザで、子育て中の女性を対象とした「子育て・お仕事大相談会」を開催しました。事業所と働きたい女性の出会いの場です。31人の参加者は、短時間勤務のある事業所(14社)のブースで説明を聞き、自分にどのような働き方ができるかを相談しました。



▲「私らしく」働く、第一歩を踏み出す参加者ら



▲女性の働き方などを話し合う

主な市政の動き

【10月】

10日・ボート競技フランス代表チームの視察受入れ(～12日)

・韓国「ラムサール条約第10回締約国会議10周年記念式典」に参加

12日・台風23号メモリアル写真展(～25日)

22日・新文化会館整備基本構想・基本計画策定委員会

23日・ラムサール条約第13回締約国会議(COP13)

ラムサール条約湿地「円山川下流域・周辺水田」エリア拡張登録認定

証授与式(アラブ首長国連邦・ドバイ)

31日・第69回豊岡市美術展(～11月4日)

・秋季市政懇談会(竹野、11月1日・日高、2日・豊岡、6日・但東、9日・出石、15日・城崎(予定))

【11月】

5日・上田市への「豊岡市民ツアー」(～6日)

・旅行博「WTM2018」に出展(～7日)

9日・仲田光成記念第18回豊岡全国かな書展(～11日)

地域と一体となり地域防災力の強化を図る

「木造家屋密集街区消防活動計画」策定後初めての防災訓練

10月21日、城崎温泉街で大規模火災を想定した防災訓練を実施しました。木造家屋密集地における大規模火災の対策として策定した「木造家屋密集街区消防活動計画」に基づく初めての訓練です。計画では、道路で区切られた街区内の建物構造、周辺道路の状況、消防水利等を調査し、効率的な消火・避難活動の方法などを定めています。

訓練には、家屋から火災が

発生し、折からの強風におおられ延焼拡大したとの想定で、城崎温泉観光協会や城崎温泉旅館協同組合、消防団、城崎町内会など約220人が参加。住民らによる初期消火、警察署員による交通規制や避難誘導、消防本部と消防団による消防活動など、関係機関が一体となり、地域の防災強化を図りました。



▲地域の住民らが参加した避難誘導訓練

未来へ コウノトリでつなげる世界

ラムサール条約湿地「円山川下流域・周辺水田」拡張記念イベント開催

11月10日、豊岡市民プラザで、ラムサール条約湿地「円山川下流域・周辺水田」拡張記念イベントを開催しました。

イベントでは、環境保護にとめるラン・レヴィ・ヤマモリさん制作の映画「KOUNOTORI」を上映し、その後、ランさんと映画に出演した岡田有加さん、中貝市長によるトークセッションを行いました。また、高校生やコウノトリKIDSクラブ

の活動発表や自然界の報道写真家の宮崎学さんによる講演、ラムサールエリアに住む魚などの展示も行いました。

学校給食にコウノトリ育むお米を使用するきっかけを作った岡田さんは、トークセッションで「子どもたちが自然で学ぶことはもちろん大切だが、そこから何か行動したり発信したりする過程こそが重要な経験になる」と話しました。



▲映画「KOUNOTORI」上映後のトークセッション

中貝市長の徒然日記 (133)

再び、韓国への旅

物語は、2008年、韓国のノ・ムヒョン大統領が、退任後、故郷ポンハ村に帰り、有機農業を始め、ファポチョン湿地の美化運動の先頭に立たれたことから始まりました。2014年、そのファポ

チョン湿地に一羽のコウノトリが降り立ち、大騒動になります。韓国でも、野外のコウノトリは絶滅していました。どこから来たのだ？豊岡だ。生前、大統領は豊岡に行きたがっていた。大統領がコウノトリを連れてきてくれた！そのコウノトリは、ポンハ

村のお嬢さんという意味のポンスニという素敵な名前を付けてもらい、大切にされて長く留まり、その後、韓国内を転々として、一年一カ月後に豊岡に帰ってきました。

その縁で、2015年5月、慶尚南道のラムサール環境財団に招かれ、ポンハ村を訪れました。ポンスニの故郷の市長は、大歓迎を受けました。ノ・ムヒョンさんのお墓にも

お参りしました。

先月、再び同財団に招かれました。「あのとき、お昼にビールを注ごうとしたら、墓参の前に飲めない、とあなたは言いました」。財団の方がそんなことを覚えていました。あのとき一緒に花を手向けた元秘書官のキム・ギョンスさんは、最近、慶尚南道の知事に就任されていました。

もう一人の元秘書官、「日韓には色々な課題があるが、コウノトリや環境問題に関して、日韓は同じ方向を向いているはずだ」と言われたキム・ジョンホさんは、その後国会議員になり、今回ほくに会うため、わざわざソウルから駆けつけてくれました。

ポンスニは、その後、島根県雲南市に移動し、福井県越前市で放鳥されたげんきくんとの出会い、カップルになり、今年四羽のヒナを育てました。げんきくんもまた、国内を転々として、韓国、北朝鮮まで飛んだ後、日本に帰り、雲南にたどり着いていました。ファポチョン湿地には、今もポンスニのフィギュアや多数の写真が展示されています。